

会 議 録

会 議 名 称	平成 28 年度 第 1 回加古川市スポーツ推進審議会
開 催 日 時	平成 28 年 7 月 26 日（火）午後 3 時 30 分から午後 4 時 30 分まで
開 催 場 所	加古川市立勤労会館 101 会議室
出 席 者	<委員> 高見会長、戎木委員、松野委員、岡田委員、小寺委員、 田中委員 <市> 田渕教育長、日浦部長、谷池次長、野村課長、田中課長、 宮武副課長、小口係長、村上主事、飯塚書記
会 議 次 第	1 開会 2 会長あいさつ 3 教育長あいさつ 4 審議事項 （１）加古川市スポーツ振興基本計画後期アクションプラン進捗状況について （２）加古川市スポーツ振興に関する市民調査について （３）今後の加古川市スポーツ推進審議会のスケジュールについて （４）その他 5 閉会

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
1 開会	
2 会長あいさつ	会長あいさつ
3 教育長あいさつ	教育長あいさつ
4 審議事項 （事務局）	（１）加古川市スポーツ振興基本計画後期アクションプラン進捗状況について ＜事務局説明＞
（会 長）	加古川ウォーキング手帳の紙の質はどのようなものか。
（事務局）	原本のとおりである。
（会 長）	手帳の対象者は、おおむね中・高齢者であるか。

(事務局)	手帳は、中・高齢者限定ではなく、幅広い世代を対象としており、市民にウォーキングを推奨するものである。
(会 長)	ウェルネス推進課と観光振興課で作成しているマップは、1 コースにつき、1 つのマップを作成しているか。
(事務局)	12 公民館ごとにコースを設定しており、それぞれ 12 種類のマップを作成しているため、1～4 コースに 1 つのマップとなっている。
(会 長)	マップは濡れてもよい紙か。
(事務局)	一般の紙である。
(会 長)	ウォーキングをする方は、よく雨の中を歩かれているため、防水加工の紙であれば喜ばれると思う。
(委 員)	私は、昨年ノルディックウォーキングに参加し、ウォーキングマップの 3、4 コースは歩いていると思う。ノルディックウォーキングは、市観光課（現観光振興課）の方にコースの説明をしてもらいながら、市内を歩くもので、とてもよかった。市民にもっと周知をしてほしい。ノルディックウォーキングコースの説明をすると、例えば、ウェルネージ加古川で血圧を測定後、ウェルネスパークを経由し、ウェルネージ加古川まで戻ってくるコースがある。ゴールのウェルネージ加古川では、再度血圧測定があり、健康とスポーツが一体となったコースであった。
(会 長)	2017 年の日本スポーツマスターズ兵庫大会は、事務局として、ボランティアを募集することを考えているか。
(事務局)	市バレーボール協会を中心に、バレーボール関係者及び一般ボランティアを募集し、大会当日の会場運営スタッフとして協力いただく予定である。特に女子バレーボールは、日韓交流を兼ねており、加古川市に韓国チームが来ることがほぼ決定している。詳細については、現段階で決まっていないが、通訳等も一緒になってボランティアに協力いただく方向で検討している。

(事務局)	(2) 加古川市スポーツ振興に関する市民調査について ＜事務局説明＞
(会 長)	当市民調査は、10 年前、5 年前と実施しており、達成度の変化を検証する目的で定期的に行っている調査である。
(事務局)	7 月 7 日 (木) に調査を発送し、7 月 26 日時点で 600 通を回収している。回収率は、46%で、1,400 通を予定している。
(会 長)	調査の一般的な回収率は 30%である。
(事務局)	(3) 今後の加古川市スポーツ推進審議会のスケジュールについて ＜事務局説明＞
(会 長)	最後に、委員の皆様それぞれの立場からご意見をいただきたい。
(委 員)	様々な内容のスポーツイベントがあるが、親と子と一緒にスポーツを体験できるイベントが少ないように感じる。子どもに熱心にスポーツをさせている親はたくさんいるが、親世代の 30 代から 50 代はスポーツ実施率が低い。そのため、親子で一緒にスポーツを行うイベントは、30 代から 50 代がスポーツを行うきっかけとなると思うので、今後そのような機会を提供していきたいと思う。
(委 員)	NPO 法人加古川総合スポーツクラブは、前々回の市民調査では、知名度及び加入率が低い結果となったが、現在、クラブに加入している会員に調査を行うと、満足度が非常に高かった。そのため、会員から一般の方へクラブに加入するよう呼び掛けをしてもらいたいと考えている。ただ、大勢の方にクラブに加入してもらいたいが、現状は活動場所に空きがない状態であり、会員が増えると対応できるかわからない。 会員を年代別でみると、子どもと高齢者が多く、高齢者の人気は卓球とグラウンド・ゴルフの 2 競技に集中してしまっている。様々なスポーツを楽しんでもらえるよう、工夫をしているところであり、中身のある活動を目指していきたいと考えている。
(委 員)	加古川市スポーツ振興基本計画等を見て、加古川市は多方面に渡ってスポーツに関する施策を行いすぎているのではないかと感じる。反対に、行

	政が何もしなければ、何もしていないという意見となってしまうこともあるため、バランスをとるのが難しい。環境が整っていなければ、行政の支援が必要であるが、行政が必要以上に手を出すと、市民の自主性や自立性をそいでしまう可能性がある。
(会 長)	スポーツを始めるきっかけを行政がサポートし、その後、自主的にスポーツクラブのような組織に加わってもらいスポーツを楽しんでもらうことが理想。
(委 員)	兵庫県障害者スポーツ協会主催で、車いすバスケットボール教室を行っており、先日、加古川市内の中学校で実施させていただいた。リオ・パラリンピックの直前で、障がい者スポーツを受け入れられやすくなっている。市内で障がい者が気軽にスポーツを行うことができる環境はまだ整っていないと思う。先日、車椅子を使用している方と市民レガッタに参加し、漕艇センターを利用したが、車椅子を担がないと利用できなかったため、もう少し環境整備を進めていただきたい。また、障がい者スポーツの大会、例えば河川敷で車いすロードレース大会等を行えばもっと盛り上がるのではないと思う。車椅子バスケットボールは、車椅子に座ると誰でもでき、障がい者と健常者が一緒に行えるスポーツであるため、普及していきたいと考えている。加古川市の障がい者の方は、個人でスポーツをされている方が非常に多いように思う。
(会 長)	障がい者スポーツについては、事務局としてはどう考えているか。
(事務局)	障がい者スポーツについては、第2次計画に明確なビジョンを入れたいと考えている。市役所では、現在、障がい者支援課が障がい者スポーツを所管しているが、社会教育・スポーツ振興課と情報共有を行っており、スポーツ推進委員を障がい者支援課主催のイベントに派遣している。環境の整備及び指導者の充実を図り、健常者と障がい者が一緒にスポーツを楽しめるような機会を増やしていくこと等を考えており、そのようなことを第2次計画には盛り込むことを検討している。
(会 長)	スポーツ推進委員会は、障がい者スポーツについて研修会等を実施しているか。
(委 員)	約4年前から、研修会に障がい者スポーツを必ず入れるようにしている。また、昨年、公認障害者スポーツ指導員の資格を取得している委員も

	いる。近年は、市障がい者支援課と協力することも増えた。以前は、日岡山体育館内のトレーニングジムに、脳梗塞等で麻痺がある方が何人かリハビリのために来られていたが、介添えの方がいなければ入場できないとのことであった。介添えの方がいなくても、インストラクターの方がついて、リハビリができるトレーニングジムになるといいと思っていた。やはり、長続きせず、最近はまったくジムに来られなくなっている。現在は、デイサービス等の施設でリハビリを行っているかもしれない。
(委 員)	高齢者は健康寿命を延ばすことが大事。老人クラブの主な目標は、会員が家に引きこもらず、外で活動することであるが、普段家にいる人を外に連れ出すのはなかなか難しい。いきいき体操を含め公民館等で様々なプログラムが実施されているが、その参加者はほとんど同じ方であるため、参加されていない人に対して、運動を始めるきっかけづくりが必要であると思う。老人クラブでも、グラウンド・ゴルフや卓球が人気で、それらは個人競技であり相手に迷惑がかからないこと、ルールが簡単であることが人気の理由であると思う。
(会 長)	加古川市は、総合型地域スポーツクラブをつくられたのが全国で早く、また法人格の取得が全国初、さらにツーデーマーチというウォーキングイベントを開催されたのも全国で早い方であり、「加古川市」はある意味でスポーツブランドとなっている。近年は、周りの自治体が同様のことを実施し、加古川市が目立たなくなっている。常に目立つ必要はないが、スポーツや健康づくりで新しい取り組みができればと思う。また加古川市には、それを支える人材が豊富なため、今計画されていることが形になればと思う。
(事務局)	(4) その他 次期計画の名称について、以前から、第2次加古川市スポーツ振興基本計画という名称を使用している。国では、平成23年に策定されたスポーツ基本法の規定に基づき、スポーツ基本計画を策定されている。そのスポーツ基本法の第10条に「地方公共団体は、スポーツ基本計画に基づき、地域の実情に応じたスポーツを推進する計画を策定するよう努める」と定められており、兵庫県でも「スポーツ推進計画」という名称で計画を策定されている。現在、加古川市では、「加古川市スポーツ振興基本計画」を策定した経緯から、「第2次加古川市スポーツ振興基本計画」という名称を使用しているが、名称を「スポーツ振興基本計画」とするのか「スポーツ推進計画」とするのか、委員の皆様の意見を伺いたい。

(会 長)	「振興」と「推進」の言葉の違いとなる。振興は何もないところに種をまき、芽吹かすイメージであるが、私の感覚ではそのような段階ではなく、芽がでているものを育成していく段階であることから、推進という言葉がよいと思う。国や県が変わっているため、それに合わせるのも1つの方法であると思う。「加古川市スポーツ推進計画」としてよいか。
(委 員)	異議なし。
3 閉会 (会 長)	